

奈良県中央卸売市場再整備基本計画(案) 概要

1. 奈良県中央卸売市場の現状と課題

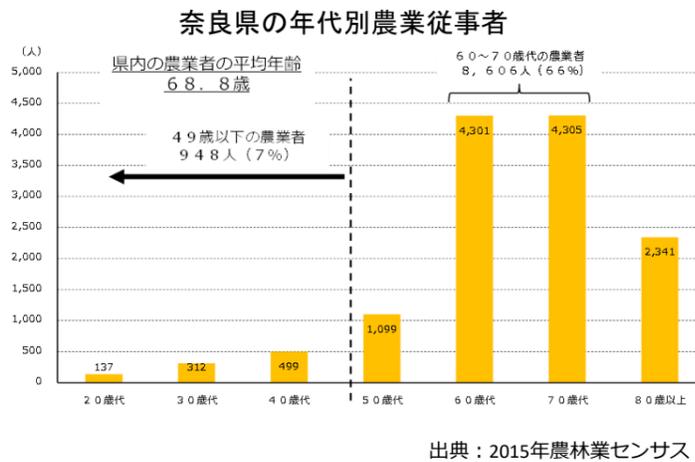
1) 市場を取り巻く主な現状

(1) 社会環境の変化

- ・人口減少・少子高齢化による食料消費の減少
- ・食の簡便化志向、中食の増加
- ・生産地の高齢化や後継者不足
- ・産直取引、インターネット販売、直売所などの市場外取引の拡大

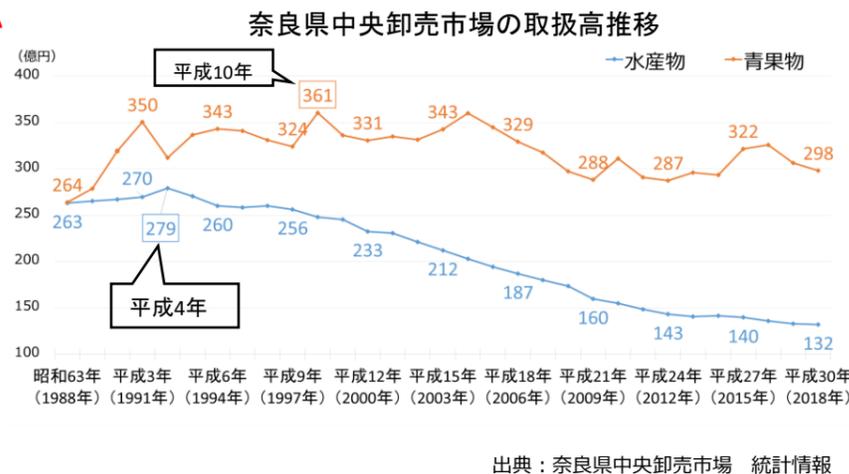
(2) 農業担い手の高齢化

- ・本県の農業従事者の平均年齢は68.8歳で、60歳代と70歳代が主体
- ・40歳代までの農業従事者は948人と全体のわずか7%



(3) 市場の取扱高の減少

- ・青果
平成10年361億円
→平成30年298億円
- ・水産
平成4年279億円
→平成30年132億円



(4) 増加する観光客数と伸び悩む宿泊者数

■観光客数

- ・観光客数のピークに迫る観光客数の増加
平成22年4,464万人
→平成29年4,420万人



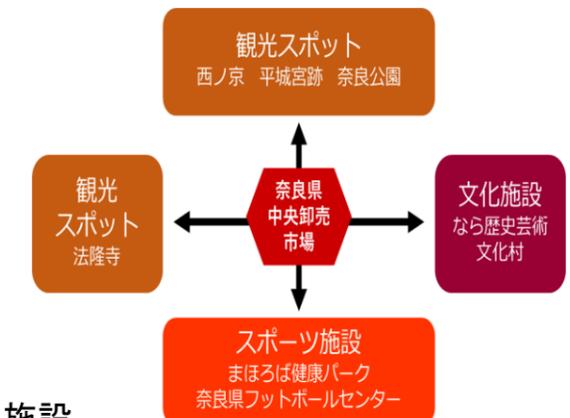
■宿泊者数

- ・観光客数の増加に比べ伸び悩む宿泊者数
平成22年297万人泊
→平成29年265万人泊

■立地

- ・北に「西の京」「平城宮跡」「奈良公園」、西に「法隆寺」などの観光スポット
- ・東に「なら歴史芸術文化村」などの文化施設
- ・南に「まほろば健康パーク」などのスポーツ施設

市場を中心とした観光スポット・施設の分布



2) 市場再整備に向けた課題への対応策

(1) 市場エリア (B to Bエリア)

- ① 集荷力の向上: 集荷量・品揃え、地場産品・規格外品等
- ② 販売力の強化: 一次加工、調理加工機能
- ③ 品質管理体制の強化: コールドチェーン化(低温流通体系)
- ④ 流通構造の多様化への対応: インターネット通販の拡大
- ⑤ 業務実施体制の改善: 共同配送・共同加工等、人材確保
- ⑥ 地域とのつながりの強化: 「食」や「食文化」に関する知見等

(2) 賑わい創出エリア (B to Cエリア)

- ① 一般消費者に開かれた新しい市場としての機能の確保: 食のイベント・食育
- ② 広域集客による周辺地域への経済効果拡大に資する施設の検討
- ③ 滞在時間拡大につながる魅力あるコンテンツの検討
: インバウンド観光、観光資源の創出、宿泊施設の充実
- ④ 多様な世代が楽しめるエンターテインメントの導入
- ⑤ 立地条件を生かした食エリアの創出: 食の拠点整備